

なぜ今、身近な自然が大切なの？

「メダカが絶滅してしまいそうだ」

ということを聞いたことはありませんか。

少し前まで、メダカは決して珍しい生き物ではありませんでした。山奥の清流で生きているような生き物でもありません。むしろ私たちが暮らすまわりの小川にたくさんすむ生き物でした。

実は、メダカのように自然にすんでいた生き物で、絶滅が心配されるものが増えています。秋の七草のひとつとして親しまれてきたフジバカマもそうです。チョウやカエルの仲間も日本各地ですいぶんと減っているようです。

それは、身近な自然自体が失われたり、自然の質が悪くなったり、あるいは外国などから持ってこられた生き物の影響を受けたり、最近数十年の間に急激に変わった人間の活動が原因なのです。

では、身近な自然は、こんな生き物たちにとってだけ大切なのでしょうか。

いいえ、そこで暮らしている人間にとっても、大切な自然なのではないでしょうか。遠くの自然ではなく、家のまわりに豊かな自然があることは、日常的に自然とふれあい、自然の恵みを受けられることにつながります。そのすばらしさは、お金や物ではかかれるものではないかもしれませんが、今のような世の中だからこそ求められる、その土地の財産なのではないでしょうか。このように、たくさんの生き物たちにとっても、私たち人間にとっても、とても重要な自然にもっと注目し、大切にしていける必要があります。



みじかな一句

町中に 何故か淋しい 栗林

群馬県 / 今泉紀寿さん

自然しらべって何？

「自然しらべ」は、日本全国の方々に参加していただいて、身近な自然を調べる調査です。

「みんなで、みれば、みえてくる」

を合い言葉に、日本自然保護協会が1995年から行っています。調べるといっても、難しいものではなく、小学校中学年以上の方が参加できるものです。生き物を調べるというより、その場所の様子から生き物とその場所とのかかわりや、人と自然とのかかわりを調べるのが、この調査の特徴です。

できるだけ多くの人に実際に出かけてもらい、身近な自然を観察してもらいたい。それを続けてゆくことで、その土地の自然への親しみや愛着が増し、関心が高まることでしょう。自然の変化にも敏感になるでしょう。それが自然を守ることにつながると私たちは考えています。

これまでに「川」、「海・湖沼」、「里やま」そして身近なところで「気になる自然」を対象にして行ってきました。これまでに全国の3万人近い方々が、個人だけでなく、家族、グループ、学校ごとに参加をしています。身近な自然が健康な状態であり続けるために、できるだけ多くの人に地域の自然の主治医になってほしいと願っています。



みじかな一句

新緑や 塗り替えられし 朱の鳥居

千葉県 / 田端義さん